

居沢尾根遺跡 (第8次) 雁頭沢遺跡 (第10次) 久保地尾根遺跡 (第8次)

平成13年度中部電力東日本鉄道信濃境
分岐線 (No.4～No.10) 間電線高上げ工
事鉄塔建設に先立つ居沢尾根遺跡緊急
発掘調査・建壳住宅建設に先立つ雁頭
沢遺跡緊急発掘調査・宅地造成に先立
つ久保地尾根遺跡緊急発掘調査報告書

2002.3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の1 ○印が雁頭沢・久保地尾根遺跡

裏表紙地図10,000分の1 ○印が居沢尾根遺跡

序

このたび平成13年度に発掘調査を実施した3遺跡の報告書を刊行することとなりました。

発掘調査は、居沢尾根遺跡が中部電力東日本鉄道信濃境分岐線(№4～№10)間電線高上げ工事鉄塔新設に先立って中部電力株式会社長野支店、雁頭沢遺跡が建売住宅建設に先立って蓼科グリンビュー開発株式会社、久保地尾根遺跡は宅地造成に先立って正木鐵臣からそれぞれ委託を受けて村教育委員会が実施したものであります。

調査の結果、3遺跡とも遺構が分布する範囲からは外れていたことがわかり、破壊された部分は最小限にとどまりました。

それぞれの遺跡は、現在までに中央自動車道建設や村道改良、県営圃場整備事業原村西部地区、宅地造成等の開発に先立って発掘調査を実施し、記録保存をはかってきました。それらの調査も居沢尾根遺跡と久保地尾根遺跡では今回で8回目、雁頭沢遺跡では10回目を数えます。

村内には100箇所ほどの遺跡が知られていますが、発掘調査に携わるたびに、貴重な文化遺産を大切にするとともに、後世に伝えて行く責任を強く感じます。開発の流れの中で、いかなる形で遺跡を保護していくか、最も妥当な方法を検討しているところであります。

発掘にあたり、県教育委員会のご指導ならびに発掘にかかわる多くの皆様のご協力に深甚なる謝意を表する次第であります。また、発掘調査報告書刊行に至る過程において、お世話をいただいた関係各位に対して厚くお礼申し上げます。

平成14年3月

原村教育委員会

教育長 津金喜勝

例　　言

1. 本報告は、中部電力東日本鉄道信濃境分岐線（No.4～No.10）間電線高上げ工事・鉄塔建設に先立って実施した居沢尾根遺跡第8次緊急発掘調査、建売住宅建設に先立って実施した雁頭沢遺跡第10次緊急発掘調査、宅地造成に先立って実施した久保地尾根遺跡第8次緊急発掘調査報告書である。

居沢尾根遺跡は長野県諏訪郡原村菖蒲沢に、雁頭沢遺跡と久保地尾根遺跡は原村室内に所在する。

2. 居沢尾根遺跡は中部電力株式会社長野支店、雁頭沢遺跡は夢科グリンピュー開発株式会社、久保地尾根遺跡は正木鐵匠の委託を受けた原村教育委員会が発掘調査を実施した。

発掘調査は、居沢尾根遺跡は平成13年4月16日から19日、雁頭沢遺跡は4月26日から5月10日、久保地尾根遺跡は11月15日から20日。整理作業は、それぞれの遺跡とも平成14年1月4日から2月25日にかけて行なった。

3. 現場での記録は田中正治郎・平出一治が行い、測量については一部を株式会社写真測図研究所に委託した。土器の拓本・図面のトレースは小林りえ、写真撮影および執筆は田中・平出が行った。

4. 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。

なお、本調査関係資料は、居沢尾根遺跡は42、雁頭沢遺跡は53、久保地尾根遺跡は57の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、ご指導・ご助言をいただいた多くの方々に厚く御礼申し上げる次第である。

目　　次

序　　例　　言　　目　　次	
I 居沢尾根遺跡	1
II 雁頭沢遺跡	4
III 久保地尾根遺跡	7
報告書抄録	

I 居沢尾根遺跡

1 発掘調査に至る経過

居沢尾根遺跡内には中部電力株式会社の鉄塔が2基建てられていたが、その電線高上げ工事が進められ、1基を撤去し1基を建てかえる計画が示された。鉄塔は既存の敷地を拡張するため破壊される面積は僅かであるが、保護処置が必要となる。そこで中部電力株式会社長野支店と協議を進め、遺跡は現状のまま保存することが最も望ましいが、事前に調査を行ない記録保存をはかるとした。

その後も協議を重ね、日程等の確認を行い、平成13年4月16日から19日にかけて緊急発掘調査を行った。

2 調査組織

事務局 原村教育委員会

教育長 大館 宏 (～平成13年7月22日)

津金 喜勝 (平成13年7月23日～)

学校教育課長 小林 銀児

文化財係長 平出 一治

文化財係 平林とし美

調査団 団長 大館 宏 (原村教育委員会教育長 ～平成13年7月22日)

津金 喜勝 (原村教育委員会教育長 平成13年7月23日～)

調査担当者 平出 一治 (文化財係長)

調査員 田中正治郎 平林とし美

調査参加者 発掘作業 小池 英男 小島久美子 小島 政雄

小松 弘 田中 初一 西沢 寛人

整理作業 小林 りえ 坂本ちづる

3 発掘調査の経過

平成13年4月16日 発掘準備をはじめる。

17日 人力にてトレンチ掘りをはじめる。縄文土器片出土。

- 18日 斜面部分のグリッド掘りをはじめる。縄文土器片、黒曜石が出土。
- 19日 引き続きグリッド掘りを行うが、遺構を検出するまでに至らないため、写真撮影・土層実測、片付けを行い現場作業は終了。

4 位置と環境

居沢尾根遺跡（原村遺跡番号42）は、長野県諏訪郡原村菖蒲沢区の西方約750mに位置する。この付近は八ヶ岳西麓にあたり、東西に細長く伸びた大小の尾根が見られるが、それらの尾根上から斜面には縄文時代を中心とした多くの遺跡が埋蔵されている。その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する菖蒲沢川と阿久川という2本の小河川によって形成された尾根上から斜面に立地している。今回の調査地点は阿久川をのぞむ尾根の北縁部にあたり、標高907m前後の山林である。

本遺跡における発掘調査は、昭和50年度から中央自動車道の建設、村道改良事業、県営圃場整備事業原村西部地区などに先立って行っているが、本調査は8回目を数える。今までに遺跡の半分程をすでに記録保存し、縄文時代中期と平安時代後期の集落跡であることがわかってきていている。また、平成12年度の調査では当方では発見例が少ない旧石器時代の遺物も出土している。

5 調査方法と層序

調査対象は第1～2図に示したようにわずかな面積であるとともに、尾根北斜面にあたることから、上部の平坦に近い部分にはトレンチ、斜面にはグリッドを設定した。手掘り作業で遺物と遺構の検出に勤めた。調査面積は52m²である。

トレンチ部分は腐植および黒色土が比較的厚く堆積していたが、グリッド部分は表土下が直接ローム層になる部分が多く、その表土も斜面を下るにつれ急激に薄くなる。

6 遺構と遺物

面積の制約もあり遺構を検出するまでには至らず、黒色土中からわずかな縄文時代の土器破片4点と黒曜石3点が出土した。土器は小破片ばかりで明確な帰属時期を示すことはできないが、早期（第3図1～3）と前期（4）である。黒曜石は小剣片のため図示しなかった。

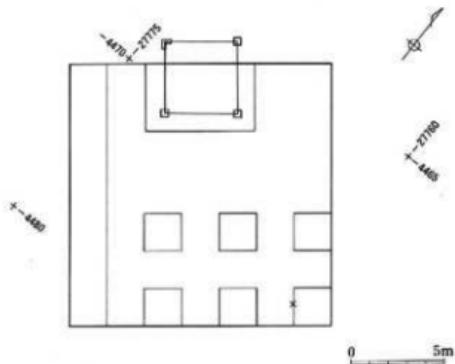
7 まとめ

遺構は発見できず、期待した旧石器時代の遺物も出土しなかった。しかしながら本遺跡は当地

方ではまれな旧石器時代の遺物を包含する遺跡である。今後も注意深く見守って行く必要がある。



第1図 居沢尾根遺跡 発掘調査区域図・地形図 (1:5,000)



第2図 居沢尾根遺跡 グリッド配置図



第3図 居沢尾根遺跡 出土土器拓影

II 雁頭沢遺跡

1 発掘調査に至る経過

平成10年度に村道改良事業に先立つ緊急発掘調査を実施しているが、その村道に接する水田に建設住宅を建設する計画が示された。周知の遺跡の範囲内であり、保護処置が必要となる。そこで夢科グリンビュー開発株式会社と協議を進めた。当然遺跡は現状のまま保存することが最も望ましいが、すでに諸開発に先立つ緊急発掘調査を続けていたこともあり、事前に調査を行ない記録保存をはかることとした。

その後も協議を重ね、日程等の確認を行い、平成13年4月26日から5月10日にかけて緊急発掘調査を行った。

2 調査組織

事務局 原村教育委員会

教育長 大館 宏（～平成13年7月22日）

津金 喜勝（平成13年7月23日～）

学校教育課長 小林 銀見

文化財係長 平出 一治

文化財係 平林とし美

調査団 団長 大館 宏（原村教育委員会教育長～平成13年7月22日）

津金 喜勝（原村教育委員会教育長 平成13年7月23日～）

調査担当者 平出 一治（文化財係長）

調査員 田中正治郎 平林とし美

調査参加者 発掘作業 小池 英男 小島久美子 小島 政雄

小松 弘 田中 初一 西沢 寛人

渡部 静香

整理作業 小林 智子 渡部 静香

3 発掘調査の経過

平成13年4月26日 発掘準備をはじめる。

5月7日 重機でトレンチ掘りを行う。

9日 人力にてトレンチ内の精査を行う。土層柱状図およびトレンチ位置図の作成を行う。

10日 重機で埋めもどし、片付けを行い現場作業は終了。

4 位置と環境

雁頭沢遺跡（原村遺跡番号53）は、長野県諏訪郡原村室内区に位置する。役場の西方1km程と好条件にめぐまれていることもあり、急速に宅地化が進んでいる。

この付近は八ヶ岳の西麓にあたり、東西に細長く伸びた大小の尾根が見られるが、それらの尾根上から斜面には縄文時代を中心とした多くの遺跡が埋蔵されている。その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する阿久川と大早川という2本の小河川によって形成された尾根上から斜面に立地している。調査地点は尾根の先端部にあたり、標高945m前後の水田である。

本遺跡における発掘調査は、昭和54年度から村道改良事業、住宅建設、宅地造成、工場建設、県営圃場整備事業原村西部地区などに先立って行っているが、本調査は10回目を数える。今までの調査で縄文時代中期初頭から中葉にかけての集落跡であることが判明しつつある。

5 調査方法と層序

調査対象は第4～5図に示したが、過去の水田開発等により多くはすでに破壊されていることが予想されたため、踏査を行う中でもっとも破壊が少ないと思われた村道ぎわにトレンチを設定した。重機によるトレンチ掘り、引き続き手作業でトレンチ内の精査を行い、遺物と遺構の検出に勤めた。調査面積は162m²である。

層序は、傾斜地を水田造成してあるため、盛り土・切り土が著しく安定していない。また黒色土からロームへの漸移層に疊が混じる部分が多くあった。

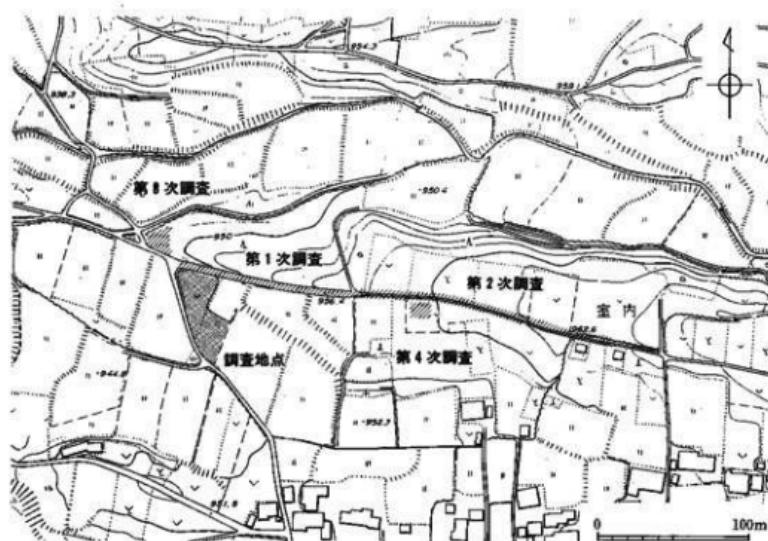
6 遺構と遺物

西側のトレンチ北端部で黒色土が厚く堆積した落ち込みを確認したが、遺物はまったく出土せず、落ち込みの立ち上がりもゆるやかで、底部に礫がみられたため、沢状の自然地形と判断した。東側のトレンチの中央付近で、まだらの土が詰まった落ち込みを確認したが、農業用ビニールが出土したため、最近の掘り込みと断定した。

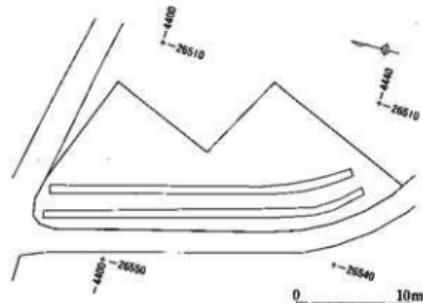
遺物は出土しなかった。

7 まとめ

調査では遺物・遺構は発見できなかった。しかしながら遺跡の末端部の様相を確認することができた。前述のとおり宅地化が進行しており、今後も開発は予想される。現集落と重なる遺跡として注意深く見守って行く必要があろう。



第4図 雁頭沢遺跡 発掘調査区域図・地形図(1:5,000)



第5図 雁頭沢遺跡 トレンチ配置図

III 久保地尾根遺跡

1 発掘調査に至る経過

この付近一帯は、村の中心部に近いこともあり急速に宅地化が進んでいるが、遺跡の外縁部で宅地造成が行われることを知り、正木鐵臣氏と協議を進めた。遺跡は現状のまま保存するのが最も望ましいが、開発者からの強い要望と、すでに諸開発に先立つ緊急発掘調査を続けてきていることもあり、事前に調査を行ない記録保存をはかることにした。

その後も協議を重ね、日程等の確認を行い、平成13年11月15日から20日にかけて緊急発掘調査を行った。

2 調査組織

事務局 原村教育委員会

教育長 津金 喜勝

学校教育課長 小林 銀晃

文化財係長 平出 一治

文化財係 平林とし美

調査団 団長 津金 喜勝（原村教育委員会教育長）

調査担当者 平出 一治（文化財係長）

調査参加者 発掘作業 田中 進 藤原 正春 宮坂今朝寿

小松 弘

整理作業 小林 智子 渡部 静香

3 発掘調査の経過

平成13年11月15日 現地で場の確認と打合せを行い、発掘準備をはじめる。

19日 重機でトレンチ掘りを行い、人力にてトレンチ内の精査をはじめる。

20日 引き続き重機によるトレンチ掘り、精査を行なうが遺物の発見はなく、遺構も発見できなかつたため、トレンチの埋めもどしと片付けを行い調査は終了。

4 位置と環境

久保地尾根遺跡（原村遺跡番号57）は、長野県諏訪郡原村室内区に位置する。役場の南方1km程と好条件にめぐまれていることもあり、急速に宅地化が進んでいる。

この付近は八ヶ岳の西麓にあたり、東西に細長く発達した大小様々な尾根がみられるが、それらの尾根上から斜面には縄文時代を中心とした多くの遺跡が埋蔵されている。その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する菖蒲沢川と阿久川という2本の小河川によって形成された尾根上から斜面に立地している。調査地点は尾根南斜面にあたり、標高980m前後の水田である。

本遺跡における発掘調査は、昭和25年4月に蓋石を有する埋甕を発見した時を便宜上第1次調査と呼び、その後は住宅建設、村道改良事業、県営圃場整備事業原村西部地区、県営担い手育成基盤整備事業深山地区などに先立って行っているが、本調査は8回目を数える。今までの調査で縄文時代中期中葉から後葉にかけての集落跡であることが判明しつつある。

5 調査方法と層序

発掘に先立ち第1図のとおり、地形に軸を合わせたトレンチを設定し、重機によるトレンチ掘り、引き継ぎ手作業でトレンチ内の精査を行ない、遺物と遺構の検出につとめた。調査面積は112.8m²である。

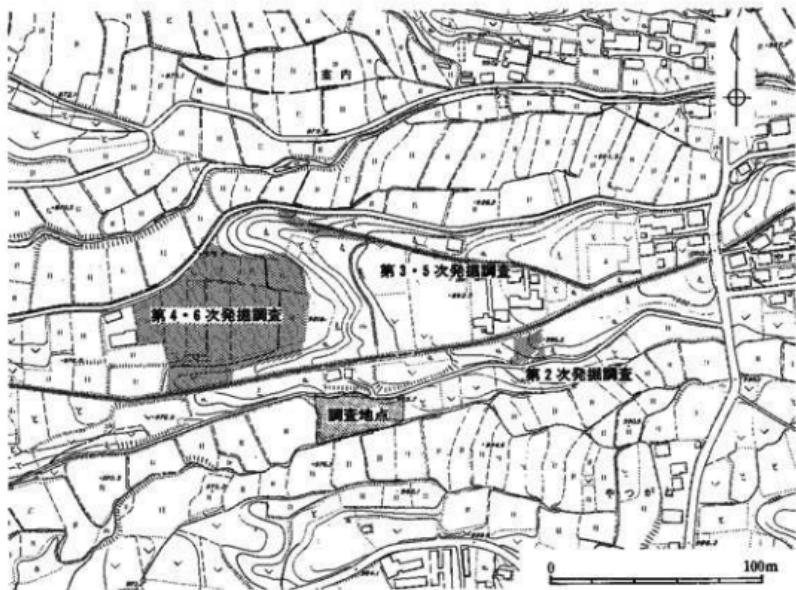
層序は、傾斜地を水田造成してあるため、盛り土・切り土が著しく安定していない上に、比較的新しい客土も広範囲にみられ最悪の状態であった。

6 遺構と遺物

すでに旧い水田造成によって全面が攪乱されていた上に、ローム層までが削平された状態で、遺構と遺物を発見するまでは至らなかった。

7 まとめ

遺跡の外縁部の南斜面の調査であったが、すでにローム層までが削平された範囲も広く、遺物・遺構は発見できなかった。しかしながら縄文時代中期の集落遺跡の外縁部のあり方の一端を窺うことができたといえよう。前述のとおり宅地化が進行しており、今後も開発は予想される。注意深く見守って行く必要があろう。



第6図 久保地尾根遺跡 発掘調査区域図・地形図 (1:5,000)



第7図 久保地尾根遺跡 トレンチ配置図

報告書抄録

ふりがな	いざわおねいせき、がつとざわいせき、くぼちおねいせき						
書名	居沢尾根遺跡(第8次)、雁頭沢遺跡(第10次)、久保地尾根遺跡(第8次)						
副書名	平成13年度中部電力東日本鉄道信濃界分岐線(No.4～No.10)間電線高上げ工事鉄塔建設に先立つ居沢尾根遺跡緊急発掘調査、建完住宅建設に先立つ雁頭沢遺跡緊急発掘調査、宅地造成に先立つ久保地尾根遺跡緊急発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	原村の埋蔵文化財						
シリーズ番号	60						
編著者名	田中正治郎 平出一治 平林とし美						
編集機関	原村教育委員会						
所在地	〒391-0192 長野県諏訪郡原村6549-1 TEL 0266-79-7930						
発行年月日	西暦 2002年3月						
所収遺跡	所在地	コード	北緯 度分秒	東經 度分秒	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村 電話番号					
居沢尾根	長野県諏訪郡 原村菖蒲沢	203637	42 57分 33秒	35度 11分 32秒	138度 20010416 20010419	52.0	中部電力東 日本鉄道信 濃界分岐線 (No.4～No. 10)間電線 高上げ工事 鉄塔建設
雁頭沢	長野県諏訪郡 原村室内	203637	53 57分 35秒	35度 12分 21秒	138度 20010426 20010510	162.0	建完住宅建 設
久保地尾根	長野県諏訪郡 原村室内	203637	57 57分 50秒	35度 12分 50秒	138度 20011115 20011120	112.8	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
居沢尾根	包蔵地	繩文時代		早期・前期土器破 片 黒曜石			
雁頭沢							
久保地尾根							

原村の埋蔵文化財61

居沢尾根遺跡（第8次）

雁頭沢遺跡（第10次）

久保地尾根遺跡（第8次）

平成13年度中部電力東日本鉄道信濃境
分岐線（№4～№10）間電線高上げ工
事鉄塔建設に先立つ居沢尾根遺跡緊急
発掘調査・建壳住宅建設に先立つ雁頭
沢遺跡緊急発掘調査・宅地造成に先立
つ久保地尾根遺跡緊急発掘調査報告書

発行日 平成14年3月

発 行 原村教育委員会

〒391-0192 長野県諏訪郡原村

TEL 0266-79-7930

印 刷 もえぎ企画書籍

〒394-0043 岡谷市御倉町2-21

TEL 0266-22-4892

